



エンカレッジコースの 手作り修学旅行

～教員・生徒の想いをカタチに～

広島工業大学高等学校 通信制課程
教諭 岡川 翔

はじめに

広島工業大学高等学校通信制課程(通称:エンカレッジコース)は、平成29年で設立7年目を迎え、年度ごとに改革と発展を繰り返しています。当初は、約30人の生徒と共に始まったエンカレッジコースも、現在では、約150人の生徒と共に歩みを進めています。

不登校の生徒を対象とした通信制高校ということもあり、初めは学校に通うのがやっとだという生徒が大多数でした。また、他者とコミュニケーションをとるのが苦手で、距離をとってしまう生徒も見られました。

しかし、自然に囲まれた沼田校舎の中で学校生活を送り、本校の教職員による手厚いサポートを受ける中で、時間と共に生徒たちは徐々に明るく元気になっていきました。学外でのボランティア活動やアルバイトに取り組むなど、それぞれの活動範囲を広げていったのです。

そして、エンカレッジコース設立から4年目には、生徒から修学旅行に行きたいという声が上がりました。



修学旅行への想い

エンカレッジコースでは、生徒の想いや主体性を大切にしています。そのため、生徒自らが語った修学旅行への想いについても、是非受け止めて形にしたいと考えました。そして、修学旅行の計画を練り始めたのです。

修学旅行を計画する際、意識したのが「エンカレッジコースらしさ」でした。エンカレッジコースの生徒の特性に合わせた、特色のある修学旅行を実現させるため、模索の日々が続きました。そして、自然と共に学びを深めていくというエンカレッジコースらしさを軸に、岡山県での修学旅行実施を決めました。

岡山県は、自然豊かな土地であり、自然の中で穏やかな時間を過ごせるようなプランを組むことができました。また、公共交通機関などの移動が苦手な生徒のことも考慮し、隣の県である岡山での修学旅行を計画しました。そして、生徒の状況に合わせた実施ができ

るように、修学旅行は希望制の形をとることにしました。

情景から歴史を感じ取る

修学旅行を通して、生徒に行ってほしいと考えていることのひとつが、情景から歴史を感じ取ってもらうことです。岡山県では、特に、倉敷美観地区と後楽園を散策する時間を取っています。



倉敷市は、かつて江戸幕府の直轄地として栄えた町で、当時の歴史を今も色濃く残している場所になります。特に、倉敷美観地区は、倉敷川に沿って、塗屋造りの町屋や柳並木を中心とする街並みが形成されています。

また、後楽園は、偕楽園、兼六園と並ぶ日本三名園の一つです。江戸時代初期に岡山藩主 池田綱政によって造営された、元禄文化の代表作品にも数えられています。

倉敷、後楽園のどちらも、歴史の息づく場所であり、日常生活の中では中々気づくことのない事柄に目を向けることができます。歴史に包まれた情景を感じ取ることで、日本の有り様や現在の日本の生活について、内省することができると思っています。



カリヨンハウスの自然体験

修学旅行の大きな目玉となるのが、カリヨンハウスで行う多様な自然体験です。カリヨンハウスは、岡山県瀬戸内市牛窓町にある研修センターで、生きる力を育てる体験プログラムを実施しています。

普段の学びの場である沼田校舎も自然に溢れていますが、そこは森の中。海に囲まれながらの自然体験に、普段とは違う自然の姿を感じ取ることができます。

磯釣り体験の中では、海との対話が図られます。釣った魚を夕食にすることを伝えると、生徒も俄然やる気になり、熱心に説明を聞き始めます。竿を選び、餌を付け、自ら釣り場を決定する中で、うまくいくよう試行錯誤を繰り返します。その中で生まれる周囲の仲間との会話や、自然に向き合おうとする姿勢は、何物にも代えがたい経験だと言えるのではないのでしょうか。

魚を釣るだけは終わらず、釣った魚はBBQの食材として調理していきます。調達から調理まで、生徒自らがすべてを行うことで、自然の困難さと恵



みの双方を感じ取ることができるようになっていきます。

そのほかにも、ナイトウォークとシーカヤック体験を実施しています。ナイトウォークは、ほとんど灯りのない手探りの状態で行うため、五感が大きく刺激されます。森の空気感や動物の鳴き声など、普段は体験できないような世界を目の当たりにすることができます。

また、シーカヤックでは、海の気性に直に触れ、一筋縄ではいかない自然の厳しさを理解する体験にもなります。

こうした自然体験を通じて、生徒の感性を刺激し、豊かな心の育成を図っています。

修学旅行がもたらすもの

修学旅行の中で見られるのが、それぞれの生徒の成長です。日常の高校生活の中では見られない生徒の姿を目の当たりにし、我々教員も驚かされることが多くあります。普段は口数が少ない生徒が全体場で挨拶を行ったり、アクティビティの中でリーダーシップを発揮したりする姿を見ると、エンカレッジコースの教育が実を結んでいるのだと実感します。

また、修学旅行を通して仲間と時間を共にする中で、これまでになかったような新たな友人関係も見られるようになります。エンカレッジコースでは、様々な行事の中で、生徒同士の

関係性が広がるよう、人間関係構築力育成プログラムを導入しています。

こうした取組みが実を結び、修学旅行に行く前と行った後では、生徒の雰囲気にも大きな変化が見られます。卒業生からも、修学旅行のおかげで学校がより楽しいものになったという声が上がっています。



今後の取組み

1泊2日で始まった修学旅行でしたが、生徒が元気を取り戻していくにつれて、2泊3日の実施ができるようになりました。そして、これまでの岡山県から、より遠くへと足を伸ばしたいという生徒の声も聞こえるようになりました。エンカレッジコースの教育が功を奏し、精力的に活動したいという想いに結びついているのかもしれない。修学旅行の内容について、再び検討していく時期に差し掛かっているとと言えるでしょう。非日常の経験を通して、挑戦する力や心身ともに健やかな心を育めるよう、エンカレッジコースらしい修学旅行を手作りしていきたいと思えます。